

－ 持続可能な農業と県北地域における農業の振興に向けて－

ドローンセンシングによる有機農業圃場モニタリング実証の取組支援

県北地域においては、少子・高齢化や人口減少等の課題を背景に、農業分野においても、後継者不足等により農業の衰退が懸念されていることから、新規参入者等の支援及び定着を進めるとともに、付加価値等を高めた農産物生産による農業の振興を図るために、有機農業の取組を関係機関が連携して推進しています。その取組の一環として、有機農業圃場における「ドローンセンシングによるモニタリングを実証」する取組を支援しています。

具体的には、有機農業の省力化を図るために、現在、常陸大宮市三美地区内の圃場（約5.5ha）において、ドローンで撮影した精巧な画像により、雑草や害虫の発生状況を短時間でモニタリングを行い、適期作業に役立てています。

－ 実 証 －

- ◇ 日 時：令和4年6月27日（水）10時30分～
- ◇ 場 所：常陸大宮市 三美地区
- ◇ 主 催：有機圃場環境クリーン協議会
- ◇ 内容等：委託業者が行うドローンセンシングにより、雑草や害虫の発生状況をモニタリングする。撮影した映像は、現地農場長と本社（筑西市）とで共有することにより、適期防除及び作業の効率化に役立てる

*（参考）

- ・協議会代表：大和田 忠
（株）レインボーフューチャー
代表取締役 ー本社：筑西市ー
→令和元年度に常陸大宮市に参入
- ・活用事業：みどりの食料システム戦略交付金
（グリーンな栽培体系への転換サポート）

→当該実証は、令和4年6月から令和5年2月までの間、およそ2週間毎に実施して、省力化マニュアル作成予定



<例>標準的には、圃場が約1.5haの場合、写真を約300枚撮影
⇒ドローンにより撮影した写真は、画像処理され、パソコンや、タブレットの画面上でいつでも確認が可能

<大和田社長のコメント>

- ・現場の圃場の見回りは、歩いて30分以上かかっているが、このシステム利用の場合、いつでもどこでも、1分程度で状況把握が出来る。
- ・現場の圃場と本社が離れており、往復には約4時間かかっているのが、大きな省力化になる。また、自分の空いている時間等を利用して、いつでも見ることが出来るので、作業の効率化にもつながっている。

県北農林事務所では、関係機関等との連携により、三美地区を有機農業推進のモデル地区と位置付けて重点的に支援しているところであり、今回の実証は、令和元年度に参入した法人の圃場における取組支援であります。また、実際に、有機農業を進めるうえでは、作業の効率化や負担の軽減等の課題もありますが、今後とも、スマート農業の導入等を含め、関係機関との連携により、多方面からの支援を進め、新規参入者等への支援及び定着化を図ることを通して、県北地域における有機農業の取組を推進してまいります。